

「西播磨圏域自立支援協議会」活動記録簿

内 容	令和5年度第5回相談支援部会
日 時	令和5年12月20日（水）13:30～15:30
場 所	龍野庁舎 第1会議室
<input type="checkbox"/> 【開会】	
<input type="checkbox"/> 【圏域コーディネーター連絡会議より】	
<input type="checkbox"/>	濱本コーディネーターより、連絡会議や兵庫県障害者自立支援連絡協議会相談支援部会での情報、他圏域の状況などについて報告。 ・法定研修について、来年度の実施に向け協議していく中で、主任相談支援専門員の方に研修の講師などの協力をお願いしたいと話があった。 ・医療的ケア児等コーディネーターの配置状況について、西播磨では上郡町以外は全て配置済となっている。連絡会議にも市町の配置者に参加へ向け声をかけていく予定である。
<input type="checkbox"/> 【10月から11月の特定相談支援等の実施状況について】	
	各事業所の相談支援実績については資料のとおり ・その他の報告事項について A 事業所・・・11月より相談支援専門員が1名増員となった。 B 事業所・・・4月より相談支援専門員が1名増員、初めて参加した。 C 事業所・・・12月より1名減員となった。
<input type="checkbox"/> 【勉強会】	
	今回の部会も相談支援員のスキルアップを目指し勉強会を開催した。 主任相談支援専門員が中心に、内容などを決め、講師を行なった。 今年度のテーマは「精神疾病への理解」であり、第2回目は「精神症状への対応」について、相生市基幹相談支援センターの菅氏が講師を務めた。 勉強会後にグループに分かれてこれまでの対応例などの意見交換を実施し、各グループで出た意見を全体で共有。 1 グループ：電話が頻繁にかかるなど、繰り返し同じ内容を伝えてくる場合は聞きがちになるが、長時間にならず相談者の予定はきちんと伝え、時間の区切ることが大事。 2 グループ：躁状態の利用者の対応に困っている意見が多い。医療（主治医）との連携が難しい中で相談支援専門員は敵でなく、味方であるという認識をしてもらうことが大事である。入院等が必要であった場合、医療機関からどのように伝えてもらうかが大事。金銭を多く使った場合、親が肩代わりをすると本人に負担がないので、きつい対応になるが本人に負担させるべきとの意見があった。 3 グループ：気持ちの波が出てくる時期で入院支援が多くなっている。躁状態での支援の大変さはみんな同じ意見であった。地域移行支援で精神科病院から退院し、外来で一番強い薬を服用することで症状が落ち着

いている状況の方もあり、医療機関との連携も大事という話もあった。精神疾患の方で40代や50代になってから知的障害があることが判明することがある。

- 4 グループ：統合失調の人との対応が減っている感じがする。躁うつで日によっていうことが変わってくる時の対応の大変さや躁状態の方が一般就労を希望しても能力的に難しい時の対応の大変さの意見が多かった。
- 5 グループ：連絡が頻繁にある方の対応など大変になることが多い。相談者との距離感を保つことが大事である。
- 6 グループ：自己コントロールの難しい人、高圧的な態度の人は受け入れるしかないのかなと思った。落ち着くタイミングできちんと話をする。複数の相談員で対応すること。クライシスプランを活用して支援をしていくと受け入れてくれやすくなった例などもあった。

【情報交換】

○高圧的な態度の利用者ではなく、支援に対し利用者が納得できなかった時の支援者の対応について

- ・利用計画作成時に何度も面談し、利用者の希望に沿った計画を作成しても、しばらくすると支援に納得ができない、何もしてくれないと言われることがある。

⇒相談支援専門員だけでなく、現場の支援者も同じ思いをすることもある。

利用者は自分の言うことを聞いてくれないが何もしてくれないに置き換わっているところが大きいのでは。

【その他】

(こんぱす)

1月中旬より事務所が上郡町保健センターに移転。連絡先等の変更なし、移転日決定後に正式に案内。

【閉会】